
Alice

菜智

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Alice

【Nコード】

N5272V

【作者名】

菜智

【あらすじ】

いつかの思い出。いつかの願い。

― 遠い、遠い、笑えない話。―

ミュージックプレイヤーから流れる一つの曲。

それはあの人が最後まで愛したたった一つの曲。

― いつか、ぼくが 居なくなったら―

― 深い、深い 森に落ちた

きみは一人で行くんだぜ。―

それを私は一人で夕日が沈むのを見ながら再生し続ける。
声となって溢れ出してしまいそんな気持ちを抑えながら。

― 繋いだ手には柔らかな体温―

いつか、近くて遠いいつかの日。

手を繋いで歩いたゆるく長い坂道を。

― 握った指が ゆるり、ほどけたら。―

坂の先に行くのを急かすようにあの人は繋いだ手をほどいて。
その時の笑顔が今も離れない。

― 枯れた音色の鐘が鳴る。 きみは一人で行くんだぜ。―

坂の先、街に唯一ある時間を知らせてくれる鐘。

― そのまま二人 歩んで一人

嘘付く声も もう 絶え絶えに。――

共に歩んでいきたい、と。
嘘について。でも、嘘は真にはならない。

――それから一人 歩いて独り
嘘付く事も もう 疲れた。――

共に隣で歩んでいきたい。
そう、嘘をつく事に疲れて、全て諦めた。

――うつむく独り 黄金の部屋
きみとふたりでいたんだぜ――

『今日は、どんな話をするの？』
『今日は……』

他愛のない話でもあの人となら楽しかった。
『いつまでも、一緒にいられたらいいな』
そう、流れ星に願って。

本当に続くと思い、願っていた。

「……馬鹿」

結局、願いは叶わなかった。

――それで終わり それだけの話――

「そう、それだけの物語。」
流れてくる曲があまりにもその通りで私は微笑んだ。

ーきみはひとりでいくんだぜー

私は坂をのぼりきり、鐘の音を聞きながら。

「私は、君と・・・」

私の声は、想いは鐘の音に消えた。

ミュージックプレイヤーに繋いでいたイヤホンをはずして

「きみはひとりでいくんだよ」

呟いた。

遠い遠い世界にいる君に届かないと分かっている。

ーさようなら。ー

どこかの世界で生きる独りの少年に誰か懐かしい声が聞こえた気がした。

（後書き）

読んでいただきありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5272v/>

Alice

2011年10月9日13時55分発行